

氏 名	渡壁 晃	専 攻	社会学専攻
		指導教授	難波 功士 教授
研究領域	歴史社会学、計量社会学、戦争社会学、記憶の社会学		
研究題目	原爆関連行事の歴史社会学——ヒロシマ・ナガサキからみた戦後日本の社会意識		
所属学会	日本社会学会、関西社会学会、戦争社会学研究会、観光学術学会		
学 歴 (学部入学から)	2014年4月 関西学院大学社会学部社会学科 入学 2018年3月 関西学院大学社会学部社会学科 卒業 2018年4月 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程前期課程 入学 2020年3月 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程前期課程 修了 2020年4月 関西学院大学大学院社会学研究科博士課程後期課程 入学		
教 歴 担当授業科目	2015年度 関西学院大学社会学部 LA (担当科目：基礎演習) 2016年度～2017年度 関西学院大学社会学部 LA (担当科目：基礎演習 B) 2017年度 関西学院大学社会学部 LA (担当科目：比較社会演習 B) 2019年度 関西学院大学社会学部 TA (担当科目：社会調査実習)		
研 究 業 績			
著書、論文、翻訳、研究報告等題名	発 表 年 月	掲載誌または発表場所	備 考
<b>【論文】</b> 「〈原爆〉の記憶の継承における『当事者』」	2019年3月	『KG 社会学批評』第8号、27-37頁。	書評論文 単著 査読有り
<b>【学位論文】</b> 「広島はヒロシマにどのように向き合ってきたのか——ヒロシマに関する行事と『生者—死者』の関係性について」	2018年1月	関西学院大学社会学部 卒業論文	「社会学部優秀論文賞（安田賞）」（関西学院大学社会学部）受賞
「ヒロシマに関する行事の歴史社会学——社会における『平和』の通時的变化を中心に」	2020年1月	関西学院大学大学院社会学研究科 修士論文	
<b>【研究報告】</b> ダークツーリズム論の課題と可能性	2017年7月	観光学術学会 第6回大会（神戸山手大学）	ポスター発表（単独） 「学部学生発表奨励賞」（観光学術学会）受賞 この業績に関連して「社会学部長賞」（関西学院大学社会学部）を受賞
(次ページへ)			

<p>広島はヒロシマにどのように向き合ってきたのか——ヒロシマに関する行事と「生者—死者」の関係性について</p>	<p>2018年6月</p>	<p>第69回関西社会学会大会 (松山大学)</p>	<p>口頭発表(単独) 「関西社会学会大会奨励賞」(関西社会学会)受賞</p>
<p>Recalling “catastrophe”: An analysis of the events relating to the Atomic Bomb of Hiroshima</p>	<p>2018年6月</p>	<p>2nd Postgraduate Conference in Japanese Studies (Kwansei Gakuin University)</p>	<p>ポスター発表 (単独)</p>
<p>【報告書】 『『同化』から『応化』へ——沖縄・本土関係の歴史的変容』</p>	<p>2017年3月</p>	<p>渡壁晃・塚本顕成編, 2017, 『『多民族共生』社会について～フィールドワークを通じた日台比較～』関西学院大学社会学部.</p>	<p>単著 平成26年度文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」事業2016年度比較社会演習A報告書</p>
<p>「近代国家と戦争の記憶——第2次世界大戦におけるホロコーストを事例に」</p>	<p>2020年3月</p>	<p>『関西学院大学 先端社会研究所紀要』第17号、112-113頁。</p>	<p>単著 2019年度先端社会研究所リサーチコンペ 中間報告</p>